

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	令和 6 年度 第 1 回高松市在宅医療介護連携推進会議
開 催 日 時	令和 6 年 5 月 1 3 日 (月) 19:00～20:20
開 催 場 所	高松市医師会館 2 階 大会議室
議 題	1 委員長の選任について 2 令和 6 年度 在宅医療・介護連携推進事業 事業計画について 3 各部会からの報告 4 高松市在宅医療支援センターの報告について 5 その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上 記 理 由	
出席委員	19 人 吉澤委員長、大原職務代理、綾田委員、石野委員、井上委員、大橋委員、岡野委員、片山委員、北代委員、日下委員、玉井委員、辻委員、永岡委員、橋本委員、林委員、藤原委員、古川委員、政田委員、松本委員
関係者	市医師会事務局 (6 人) その他：医師会 (伊藤会長、香西副会長、和田副会長、西口理事、塩見理事、井垣理事、香川理事)
傍 聴 者	0 人
担 当 課 及 び 連 絡 先	長寿福祉課 地域包括ケア推進係 839-2346 在宅医療支援センター 839-2344 保健医療政策課 839-2860 介護保険課 839-2326 地域包括支援センター 839-2811

協議経過及び協議結果

1 委員長の選任について

- ・委員の委嘱状および任命状を渡す。(任期：令和 6 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日)
- ・事務局の進行により、委員、オブザーバー、医師会事務局、担当課の紹介を行う。
- ・設置要綱に沿って、委員長と職務代理の選任を行う。

2 令和 6 年度 在宅医療・介護連携推進事業 事業計画について

- ・令和 6 年度 事業計画を説明する。

3 各部会からの報告

(1) ICT 部会

○ 3/13 第 4 回 ICT 部会

- ・入退院支援情報共有システムの使用感の感想や課題の共有を行った。
- ・令和 6 年度診療報酬改定について、在宅医療や ICT 化に関係する項目の共有と意見交換を実施した。

- ・第1回 ICT 部会を 6/5（水）19：00 から、高松市医師会にて開催する。

○ 在宅ケア便利帳の更新について

- ・3 医療機関、1 インフォーマルサービス、1 薬局の新規掲載の承認を得る。
- ・1 医療機関の掲載内容更新の承認を得る。

(2) 退院支援・医療介護連携部会

○ 医療介護連携ミーティングについて

【日 時】令和 6 年 7 月 28 日（日） 午前

【場 所】高松市医師会

【テーマ】「リハビリテーション再考～あなたの知らない〇〇リハ～」

【講 師】高松共同病院 植木医師

【内 容】回復期リハビリテーションに関する講演とリハビリテーション職種による、パネルディスカッション

○ ホームページ「在宅医療介護情報サイト」について

- ・一般市民や専門職に対して、在宅医療に関して有益と思う情報や医療介護連携ミーティングの内容を随時掲載していく。

○ 入退院支援ルールの見直しについて

- ・診療報酬、介護報酬の改定内容を踏まえて見直しが必要である。現在、医療介護連携に関わる部分の情報収集と共有を行っている。6 月開催の部会にて、具体的に話し合う。

T 委員

- ・医療介護連携ミーティングでは、普段から連携しているリハビリテーション職種が、具体的にどのような役割を果たしているのか、何を目指してリハビリに取り組んでいるのか等話してほしいと思っている。多職種理解を深め、専門性を生かした上で連携をとっていくことが重要であると考えている。

(3) 在宅医療コーディネーター部会

○ 3/17 第 6 回在宅医療コーディネーター養成研修・公開講座

【日 時】令和 6 年 3 月 17 日（日） 13：30～16：30

【場 所】高松国際ホテル 瀬戸の間

【講 演】「在宅医療と介護～能登半島地震の経験を交えて～」

【講 師】山梨市立牧丘病院 医師 古谷 聡 先生

【内 容】在宅医療コーディネーター修了証書、在籍証明書、バッチの授与と講師による特別講演

【アンケート】回答率 82.9%

C 委員

- ・特別講演内容には、看取りの話も含まれており、内容が幅広く難しかったという意見もあったが、大半の受講生が聞きやすかったとの感想だった。
- ・今年度は、受講要件に管理栄養士を加える。

A 委員

- ・9 年間の養成を終え、約 400 人の在宅医療コーディネーターが誕生した。今年度は、養成研修

を開催するが、11 年目以降については、慎重に検討していきたい。

(4) 多職種連携部会

- 3/11 多職種連携研修会の振り返りを行う。

【テーマ】「BCP を支える多職種連携～全ての人がつながるために～」

【日 時】令和 6 年 2 月 12 日

【場 所】高松市医師会

【講 師】ミネルヴァベリタス株式会社 顧問 本田 茂樹氏

【内 容】BCP 策定に関する講演と災害支援に関わる機関（高松市危機管理課、健康福祉総務課、日本赤十字社香川支部、香川県社会福祉協議会、訪問看護ステーション）によるパネルディスカッションを実施。

B 委員

- ・受講生の反応は良く、研修内容は高評価であった。平時からの連携が重要であることが理解できた。
- ・今後は、各事業所が取り組んでいる内容を共有出来たら良いのではないかと考えている。
- ・令和 6 年度に関しては、新型コロナウイルス感染拡大により、中止になった劇団たんぽぽの演劇を行う予定。

4 高松市在宅医療支援センターの報告について

- 令和 6 年 3・4 月の活動報告

【相談件数】3 月：15 件、4 月：23 件

【その他】訪問による、医療・介護機関情報収集の実施、人生会議や入退院支援ルールの普及啓発に取り組む。

- 令和 5 年度の活動報告

- ・年間相談件数は、166 件。
- ・内容としては、医療機関の情報提供が一番多かった。

5 その他

- 部会委員名簿について

- ・委員長選任につき、部会委員名簿を配布する。

A 委員

- ・前任が担当していた部会を継続して担当してもらっている。各委員において、部会変更が必要な委員がいれば相談してほしい。

- 関係課から情報提供

- ・長寿福祉課より、第 9 期高松市高齢者保健福祉計画、R6 年度版あんしんガイドブックを配布。
- ・地域包括支援センターより、地域包括支援センターリーフレット、認知症初期集中支援、認知症カフェ、権利擁護センターのチラシを配布。

A 委員

- ・香川県全域で主治医意見書作成を電子化する取り組みを検討中である。高松市は、行政から主治医意見書作成依頼を行う方式ではないため、電子化にあたっては、申請方法を検討する必要がある。

るのではないかと。患者と行政と両方からの依頼に対応できるシステムであれば良いが、高松市で主治医意見書作成数が多いのは、患者や介護支援専門員が短期間で意見書作成を依頼できるからではないかと、とも考える。

C 委員

- ・比較的元気であるが、交通手段がなく買い物や医療機関受診に行けない高齢者が増えてきている。
- ・かかりつけ医を変更したくないと考える人は多いが、医療依存度の高い患者を受け入れできる有料老人ホームが少なく、施設を探すのに苦慮している。老人保健福祉施設等が受け入れ先として考えられるが、主治医が変わってしまう。患者の意思決定を尊重できるように、看護師常駐等がわかる施設のリストがあれば助かる。
- ・胃ろうやポート（皮下埋め込み型静脈カテーテル）の患者を受け入れてくれる病院がない。倫理的配慮が必要なことは理解できるが、処置として必要であり、有効な面もある。肺炎や感染症のリスクがあり、なかなか転院先につなげられない。患者や患者家族、関係機関と検討した結果の選択であったとしても、つなぎ先が見つけれないのは困る。受け入れ可能な医療機関のリストがあれば助かる。

R 委員

- ・第9期高松市高齢者保健福祉計画 145 ページから「外出支援の充実」として公共交通における高齢者運賃の半額事業やバリアフリー化、福祉タクシー助成、地域における移動支援等について、掲載されている。地区社会福祉協議会や社会福祉法人所有の車両を活用して、地域独自で移動支援の取り組みが進んでいる。移動支援が進んでいない地域もあるため、関係機関と連携して考えていく必要がある。

N 委員

- ・施設で医療対応に関するリストは作成していない。職員状況等により、受け入れ可能要件が変わるので、リスト化はできていない。

A 委員

- ・クリニックは、胃ろうやポートの対応に困るところも多いと思う。しかし、必要があれば対応する病院はある。必要性を考えるにあたり、慎重に行う必要がある。

（参考）令和5年度 第6回 高松市在宅医療介護連携推進会議

【次回の会議】 令和6年7月8日（月）19：00～ 高松市医師会